「丹波の森を未来につなぐフォーラム」

実施報告書

丹波の里山づくり促進事業実行委員会

１ 企画内容

（１）フォーラムのねらい

「丹波の里山づくり推進事業」では、フォーラムと里山育成研修会の開催を通じて、丹波の里山づくりの発信と体験の推進を狙っている。

昨年度のフォーラムを起点として発展した里山育成の研修会開催や選定モデル林での活動、里山アドバイザーの導入、木の駅支援などに関する報告の場として今回のフォーラムを活用し、また今後の森づくりに関わる人口を増やすための情報共有・発信の場として運用する。

また今年度のフォーラムを通じて、選定モデル林活動への積極的な参加を促し、各活動団体が自発的に森づくりのモーブメントを発信・発展できるようなサポートづくりを推進していく。

（２）サブタイトル

昨年度の「30 年後の森を描こう」から、今年度は実際に「絵からカタチ（餅）にしていく」ためのステップだと位置付けられるため、タイトルを以下のように提案する。

『３０年後の森をつくろう！（丹波の森を未来につなぐフォーラム）』

（３）参加対象

- 丹波篠山地域に在住の方150-200 名程度
- 選定モデル林での活動に参加している地域住民
- 参加へのきっかけを探している地域住民

（４）内容（タイムテーブル）

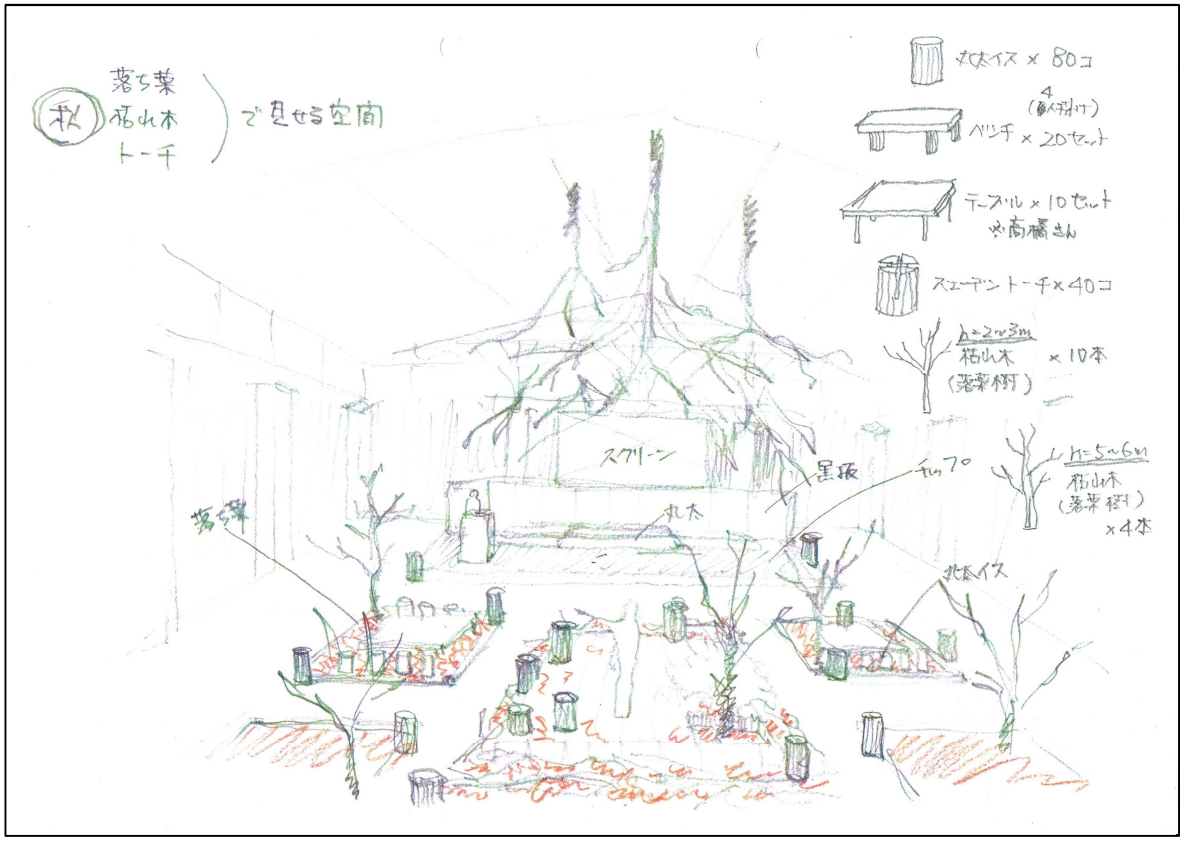
8:00 会場セッティング開始
10:00 ロケットストーブづくりワークショップ（任意参加）
11:30 セッティングとWS終了／昼食休憩
12:00 関係者段取り確認／受付開始
＝＝
13:00 フォーラム開始・挨拶（県民局の方）・フォーラムの趣旨と過去の取組み説明

13:20 基調講演
13:50 基調講演終了／６モデル活動団体の事例紹介（各団体5分程度）
14:20 パネル展示セッションタイム（トイレ休憩兼ねる）
　　６モデル活動団体＋新規の4モデル活動団体＋県民局
14:50 CMづくりワークショップ開始
15:45 各グループ発表（8～10グループ×30秒程度）
15:55 総括
16:00 閉会の挨拶
＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝
18:00 撤収完了

（５）会場のイメージ

季節に合わせて「秋」のイメージを意識する。会場の四方は山に囲まれているため、そのままの借景を活かしつつ、席の足元や会場センター部分に「落ち葉」「枯れ枝（立木）」などを組み合わせながら演出する。

なお、終了後は破砕処理し、丹波篠山の八百材舎（木の駅）の土づくりのための材料として活用し、農業用の土壌改良材として再資源化される。（下記スケッチはイメージです。）



会場のイメージ

２ 実績報告

（１）会場の状況　丹波市立青垣町総合運動公園（グリーンベル青垣）屋根付き広場

（２）ワークショップ　ロケットストーブづくり

フォーラム開催前の10時からロケットストーブづくりのワークショップを行った。

10名程度の参加者にロケットストーブの仕組みや作り方を説明し、みんなで協力して３台のストーブを作った。

予定時間よりも早く参加希望者が集まり、また､材料持ち込みで参加する人もいるなど、一定の関心や需要があるように思われた。

なお､完成したロケットストーブは、さっそく当日のフォーラムで、暖房装置として運用した。

（３）フォーラムイベント

① 主催者あいさつ

丹波の森づくり促進事業実行委員会　飯 塚 功 一 会長（兵庫県丹波県民局長）

② 来賓あいさつ

兵庫県議会　小 西 隆 紀 議員

③ 丹波地域のモデルとなる里山づくり活動団体 認定書授与

・平成３０年度　６団体

生郷里山づくり懇話会

北岡本自治会

下三井庄自治会

特定非営利活動法人 バイオマスフォーラムたんば（当日所用により欠席）

平松区森林愛好会

森の学び舎プロジェクト

・令和元年度　４団体

岩崎自治会

上板井自治会

ふるさと和田里山づくり協会

八幡共有山組合（当日所用により欠席）

生郷里山づくり懇話会

北岡本自治会

下三井庄自治会

平松区森林愛好会

森の学び舎プロジェクト

岩崎自治会

上板井自治会

ふるさと和田里山づくり協会

④ 基調講演　　三木一弥氏：森づくりに参加してみよう！

森と踊る株式会社代表の三木さんによる講演。「森業(＝森と人が共にイキイキと成長する業)」を展開する森と踊る株式会社は、東京都八王子の放置人工林をフィールドに、鎌剥き間伐を中心とした自伐型の施業を行う。

丸太の搬出、製材、加工、販売、リフォーム、森に人が集う企画の開催など活動は多岐にわたる。森にかかわる活動が、心踊るものであることが大事だということを強くお話いただいた。

義務感や必要性からではなく、自然の素晴らしさに注目して、森や森づくりを楽しむ。楽しむことによっていろんな市民が森に集い、いろんな活動を市民の力を生かしながら展開していくことができる、と語るイキイキとした表情にはとても説得力があった。

森づくりについての新しい考え方や事例に、参加者は食い入るように耳を傾ける様子がみられた。

⑤ モデル活動団体報告

平成 30 年度から活動を始めた６団体の活動報告

・生郷里山づくり懇話会
・北岡本自治会
・下三井庄自治会
・平松区森林愛好会
・森の学び舎プロジェクト
・特定非営利活動法人 バイオマスフォーラムたんば（当日欠席のためビデオメッセージ）

生郷里山づくり懇話会

北岡本自治会

下三井庄自治会

平松区森林愛好会

森の学び舎プロジェクト

特定非営利活動法人
バイオマスフォーラムたんば

ビデオメッセージ

⑥ ワークショップ『みんなで里山のＣＭづくり』（もし 2025 年大阪万博で里山館ができたら…）

神戸芸術工科大学の曽和具之先生のファシリテーションによるワークショップ。

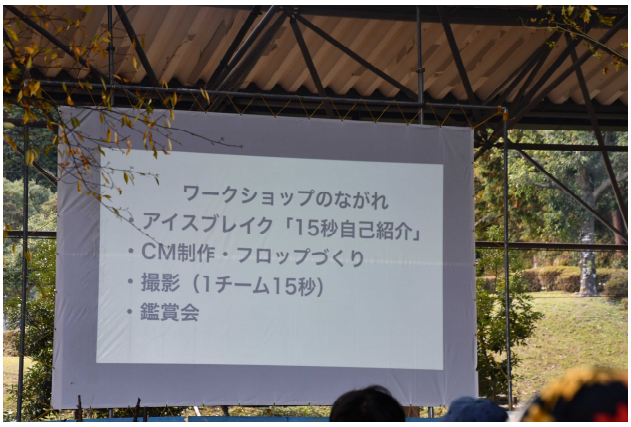
「大阪万博で里山をPRするパビリオンをつくる」というテーマで、参加者がグループに分かれ、パビリオンでできること、ターゲット（対象となるお客）、パビリオンの名称、キャッチフレーズを話し合った。

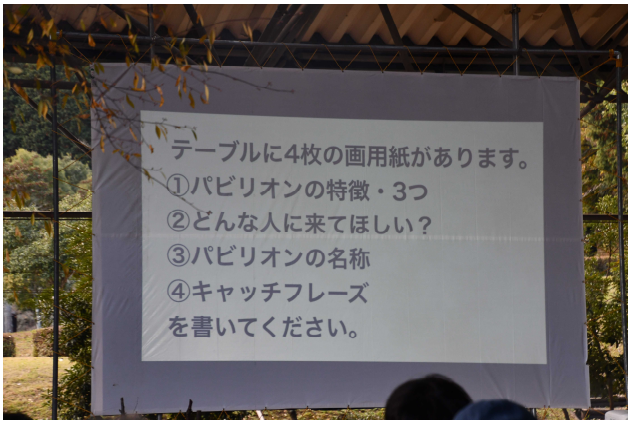
その内容をもとに、参加者全員で寸劇をしながら30秒のＣＭ作成と撮影を行った。

里山のどんなところが魅力で、どんな人に訴えかけるか、それをどうやって効果的に伝えるかを参加者全員が主体的に考え、活発に議論が行われた。

CMという成果物を参加者が共同でつくるという内容によって、里山にかかわる活動への楽しい発想や参加者同士のつながりが生まれる場になったように思われる。

ファシリテーター
曽和具之氏（神戸芸術工科大学）





里山
タイムマシーン
時代と世代
をつなぐ
里山

里山わくわく
館

山の良いところ
山の味がわかる
・山のあそびができる
好奇心旺盛で
楽しい人
のんびり
おいしい
山の恵みを思う
のんびり
山の味わい
中で遊びたくなる
山を愛する人は老若

恐怖
リアル里山
脱出ゲーム
あなたは
もう里山から
逃げられない…

恐怖
リアル里山
脱出ゲーム
あなたは
もう里山から
逃げられない…

⑥ フラワープリンセスひょうご２０１９の出務

司会　高野光咲氏

フラワープリンセスひょうご2019

３ 資料編

（１）打ち合わせ記録

(7月25日15:00-@バイオマス丹波篠山)

- 業務内容（方針）の確認
- 企画書草案を次回提示

(8月6日11:00-@県民局)

- フォーラムと別途開催している研修会との位置付け確認
- フォーラムのイメージ内容を確認
- 次回詳細な企画書を作成・提示

(8月26日14:00-@県民局)

- 企画書の内容を確認
- ロケットストーブづくりのプログラムを午前中にまわす
- 会場候補にグリーンベル青垣
- 次回チラシと告知用動画のタタキを作成

(10月15日14:00-@県民局)

- 基調講演を三木一弥氏で決定（詳細プロフィールを後日提出のこと）
- チラシの微修正
- 告知用動画は、絵コンテの通り概ね進める
- 会場はグリーンベル青垣で決定
- 内部会議用に資料を作成（各修正部を反映）
- 各活動団体への参加を要請

(11月5日10:00-@県民局)

- チラシ完成で配布開始
- 県知事の発表までオフィシャルな告知は控えること（5日以降から解禁）
- 告知用動画の微修正。修正後、即配信
- 会場はグリーンベル青垣で決定
- 各活動団体への参加を要請

(11月14日13:00-@県民局)

- 申込者数の共有
- 告知用動画のデータを提出

※なお、10月から11月にかけて、打ち合わせの場以外でチラシ・パンフレットなどの内容を確認をメールにて個別に行なっている。

（２）その他資料

- 告知用チラシ
- 告知用動画絵コンテ
- プログラム・パンフレット
- 各活動団体パネル・データ
- アンケート